



# 朝一小だより

活気と潤いがあり、みんなが「育つ」学校

学校教育目標

- ・考える子
- ・やさしい子
- ・たくましい子



朝霞市立朝霞第一小学校  
 令和3年6月1日  
 児童数 587名  
 校長 野口 邦彦

TEL048-461-0052 <http://www.asakadailshou.city-asaka.ed.jp/>

## 正解があるわけではないけれど、みんなで考える「子育て」

校長 野口 邦彦

今回は、「子育て」について、みんなで考えてみたいと思います。

私自身、2人の子（すでに二人とも成人してしまいましたが）の父であり、また、教員として30年（教員時代は中学校、管理職になってからは小学校）勤め、たくさんの子どもの「育つ」に関わってきました。そんな私ですが、いまだに「子育て」において、何が正解かはわかりません。例え、教員と言えども、自分の子どもを育てるのは難しく、うまくいかないことばかり、特に姉弟で、同じように育てたつもりでも、同じようにはならない。「子育て」は、決して親や教師の思い通りにはならないということ、また、子どもが育っていくためには、たくさんの人に支えられているということ、色んな経験の中で学ばせてもらいました。（今も学んでいる最中ですが）そんなつたない経験の中で、「子育て」においては、こんなことが大切なのではないかといった、私なりのポイントを書いてみたいと思います。だからと言って、「“子育て”とはこうだ」と大上段に構えるつもりはなく、子ども達の「育つ」に関わる中で、感じたことを書いてみたいと思います。

### 【私が考える“子育て”のポイント】

- 子どもに“答え”を与えるのではなく、“気づき”を与える。（答えを与えると、子供は考えません）
- 子どもにかけるべきは“心配”ではなく、“信頼” 信頼して待つ勇気も大切。（大人も我慢）
- たくさんコミュニティを子どもに与える。（たくさん大人の関わってもらう）
- 子どもの失敗をむやみにカバーしない。時には、物わがりの悪い大人を演じる。（失敗こそ学ぶチャンス）
- 子どもに選択肢を与えて、最後は子ども自身に選ばせる。（ヒントは与えても決めるのは自分）
- 子育ては、余白が大事。（子どもはボーッとしている時に、思考しています）

私は常々、「育つ」という事を言っています。「育ててもらおう」ではなく、「自ら育つ」です。でも、そう言っても、子どもが「(自ら)育つ」ための前段階としては、まわりの大人の「(その子を)育てる」が必要になります。それが「子育て」の部分であり、「子育て」は、ある意味、子どもが「自ら育つ」までの滑走路かもしれません。「子育て」は本当に難しい。ましてや、今の時代、親として「子どもを育てる」ことは、本当に難しいと思います。だからこそ、例え親でも一人で抱え込まず「みんなで育てていく」これが大切なのではないでしょうか。学校も、その「みんな」の一つです。子どもは親の宝であると同時に、みんなの宝であり、未来です。これからも、保護者、学校、地域みんなで子どもを育てていければと思います。そして、それが子ども自身の「(自ら)育つ」につながっていければと思います。

### 未来へのアイテムを手に

国の「GIGAスクール構想」のもと、本校においてもタブレット端末の配付が始まりました。あくまで朝霞市からの貸与と言う形ですが、本校では在籍中は、一人一人専用の端末として使っていきます。端末を配付された児童、特に低学年などは目を輝かせていたのが印象的でした。まずは、授業の中で使えるところから使っていきたいと思いますが、ゆくゆくは自宅への持ち帰り等も予定しております。タブレットやスマホ等、当たり前ようになってきた今の時代、まさに、こういったICT機器は、子ども達の未来へつながるアイテムです。便利になってきたとともに、その使い方の功罪もあります。ぜひ、この機会にご家庭でも使い方やルール等について、話題にしてみてください。

